



7 薩摩国日置北郷下地中分図 (重要文化財)

## 7 薩摩国日置北郷下地中分図 (重要文化財)

S 島津家文書一二一二八。一幅。縦九七・二  
cm、横六七・二cm。紙本墨画淡彩。

日置北郷の下地中分を描いた図。島津荘に属  
する日置北郷は、現在の鹿児島県日置市に位置  
する。莊園領主は、本所が近衛家、領家が興福  
寺一乗院で、郡司の系譜をひく薩摩平氏一族が  
下司として支配を行っていた。一方、地頭島津  
氏が勢力を伸ばし、鎌倉後期には庶流の伊作島  
津氏が地頭職を相伝していた。領家・下司と地  
頭の対立は弘安年間(一二七八〜八八)以降頻  
発し、元亨四(一三二四)年、日置北郷は下地  
中分された。中分絵図は、和与状(紛争の和解

契約状)と共に、領家方雜掌と地頭代との間で  
作成された。裏面には、中分線を挟んで雜掌と  
地頭代が署判を据え線を確定した。中分により、  
北側が領家の、南側が地頭の一元支配地となり、  
年貢、公事などは双方に振り分けられた。史料  
編纂所では、莊園絵図の精細な図版を集成した  
『日本莊園絵図聚影』を編纂している。

〔参考〕『大日本古文書』島津家文書之一、五五  
〇・六〇五号。『日本莊園絵図聚影』五下。黒田  
日出男「領主の争いと莊園の分割」(小山靖憲・  
佐藤和彦編『絵図にみる莊園の世界』)東京大学  
出版会、一九八七)。